

平成23年度 第4回成果発表会

効果的な行政対応態勢の確立：地域・生活再建過程の最適化に関する研究【中林G】

事前復興まちづくり手法の開発

首都大学東京	都市システム科学域	准教授	市古 太郎
首都大学東京	都市システム科学域	准教授	饗庭 伸
首都大学東京	都市システム科学域	助教	小田切利栄
明治大学	政治経済学研究科	教授	中林 一樹

「手法」の意味 (Not「訓練手法」の開発)。

[1] 復興まちづくり訓練手法の開発と拡張。

- ・個々の訓練手法の拡張(2002-2006大大特Projectからの発展)
- ・訓練全体プログラムのパッケージメニュー化

[2] 基礎自治体版「震災復興マニュアル」策定手法の開発

- ・職員ワークショップ方式プログラムでのマニュアル策定(葛飾区、豊島区)

[3] 地域住民・専門家向け「復興まちづくり訓練の手引き」作成

- ・「よしやってみよう」という気持ちにさせ、復興準備行動を意識づける。

中林Gの研究開発実施経緯(2007FY-2011FY)

表2 首都大学東京チーム(事前復興計画研究会)による事前復興まちづくりの支援経緯

年度	震災復興まちづくり訓練	復興マニュアル策定支援	事前復興まちづくり支援	地域防災組織のエンパワメント	東京都都市復興図上訓練
2003	・練馬区貫井(5回)				no commitment
2004	・葛飾区新小岩(4回)				no commitment
2005		・八王子全域(1回)			・葛飾区新小岩
2006	・練馬区桜台(4回)	・八王子市打越団地(1回)	・練馬区(2006-07)	・徳島県美波町津波事前復興WS	・練馬区貫井
2007		・八王子市打越団地(1回)			・練馬区桜台
2008	・葛飾区堀切(4回)	・八王子市諏訪町周辺(3回)	・葛飾区(2008)	・静岡県富士市吉原事前復興WS	・町田金井地区防災点検 ・足立区北千住
2009	・豊島区上池袋(4回)	・八王子市上恩方(2回)	・豊島区(2009-10)	・練馬区貫井富士見台地区防災密集整備まちづくり支援	・町田市シナリオ型震災イメージWS ・品川区戸越豊町二葉
2010		・八王子市子安(2回)		・練馬区貫井バンブーシェルター	・町田市自主防災組織力UP講習会 ・板橋区大山
2011		・八王子市別所二丁目(3回)			・町田市避難所地域運営WS ・豊島区上池袋

震災復興まちづくり訓練の展開(2001年～)

2011年12月で
都内40地区
(東京都調べ)



市部では, 八王子市において
・旭が丘団地(H18,19)
・諏訪町周辺(H20)
・上恩方(H21)
・子安西(H22)
・別所二丁目(H23)

・背景図は防災生活圏域
・同一地区で翌年さらに対象地区を絞り込んでいった際は2地区としてカウントしている。

Outcome1:首都大チームで開発した復興まちづくり訓練20の手法

手法カテゴリー	手法	適用地区
I.被害イメージづくり	1) 復興資源点検まちあるき	ほぼ全地区
	2) 訓練用被害想定で作図	ほぼ全地区
II.再建プロセスイメージづくり	3) 住まい再建ロールプレイング	葛飾新小岩, 八王子諏訪周辺, 上恩方
	4) 避難所からの生活再建 Yes/No ゲーム	練馬桜台地区, 八王子諏訪周辺, 上恩方
	5) 地域リーダー用復興問題トレーニング	豊島上池袋, 葛飾堀切
	6) 町工場・作業所再建シナリオゲーム	葛飾堀切
	7) マンション管理組合再建シナリオづくり	八王子別所
	8) マンション建て替え再建プロセスデザイン	八王子別所
III.時限的市街地デザイン	9) 仮設のまちキャパシティサーベイ	練馬貫井, 桜台, 葛飾新小岩, 堀切, 豊島上池袋
	10) 仮設の住まいデザインゲーム	練馬貫井, 桜台, 葛飾新小岩, 堀切, 豊島上池袋, 八王子子安
	11) 仮設の商店街デザインゲーム	練馬貫井, 葛飾新小岩, 堀切
	12) 時限的公園利用デザインゲーム	八王子子安
	13) 実寸バンブーシェルターづくり	八王子上恩方, 練馬貫井
IV.復興課題の明確化	14) 復興ワールドカフェ	豊島上池袋, 八王子上恩方
	15) 専門家復興何でも相談会	葛飾新小岩, 堀切, 練馬桜台, 豊島上池
V.復興まち空間像のデザイン	16) 訓練用復興まちづくり方針エスキス	豊島上池, 葛飾新小岩, 堀切, 八王子諏訪周辺
	17) 住民による復興方針づくり	葛飾新小岩
VI.地域協働プロセスデザイン	18) 地域協働プロセスデザイン	葛飾堀切, 八王子諏訪周辺, 別所
VII.復興訓練成果のアーカイブス	19) 地域組織版復興手順書	葛飾堀切
	20) 訓練映像作品づくり	練馬桜台, 八王子諏訪周辺, 豊島区上池

H21年度 豊島区上池袋地区



H21年度 豊島区上池袋地区



H21年度 豊島区上池袋地区

栄ハウス

豊島区上池袋 1-10-9



H21年度 豊島区上池袋地区

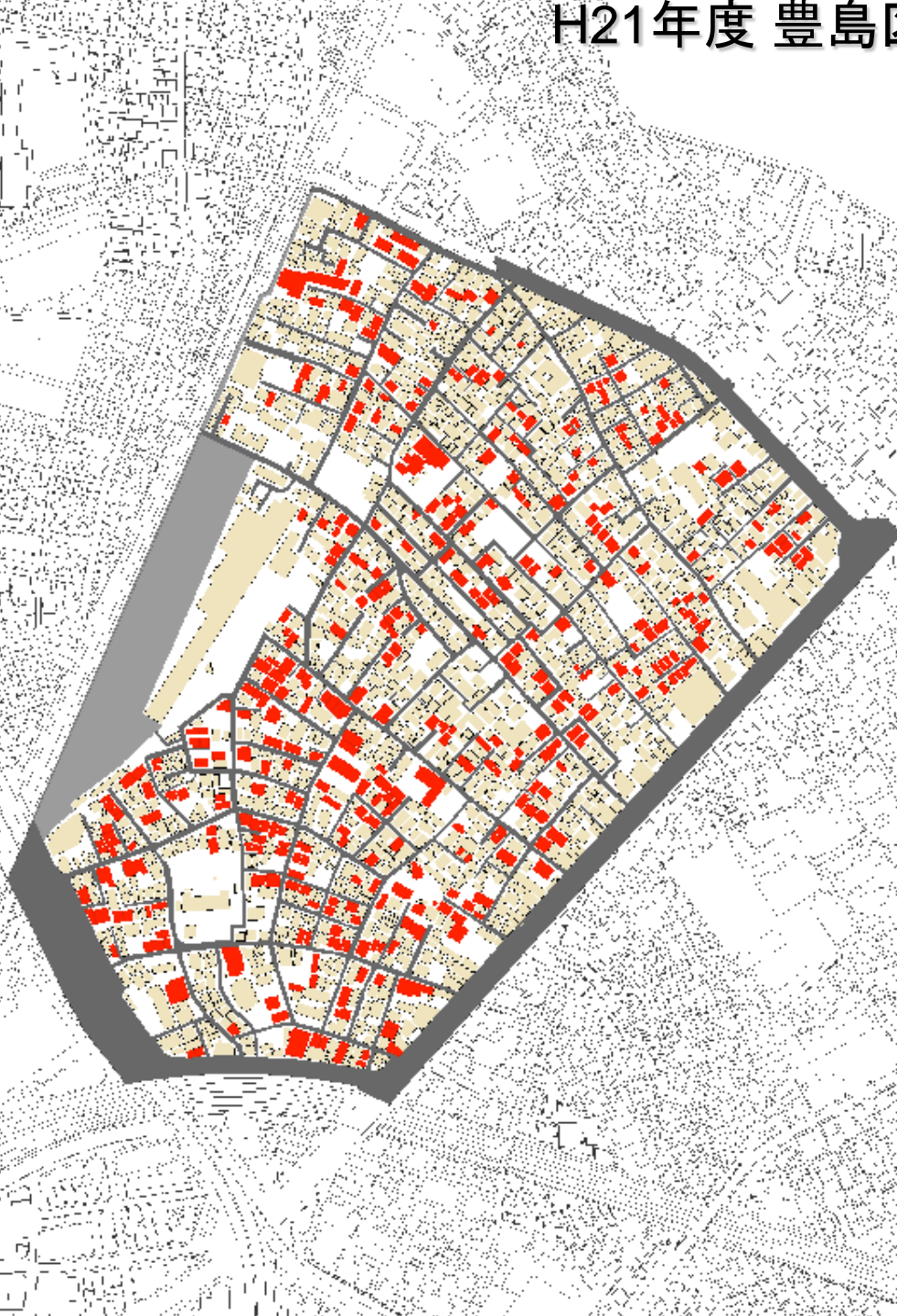
平成21年11月 予定表

1	池袋中学校 学習発表会、ゴミ0デー 1.3.5	16	
2		17	
3	塚駅東西「オープンシタレ」商店街ホクリグ大会	18	水 統計省「資料館」見学 (注) 13日(土)池袋駅前 後斗 町会誌
4	池袋警察署長「祖送迎会」	19	
5	池袋斗二地区 区政連絡会 AM 10:00~	20	金 池袋斗一小学「授業参観日」 PM 1:40~
6		21	土 上池袋町会「北・中・南」町会復興まちづくり会
7	豊島中央病院「無料診療斗集会所」	22	日 上池袋町会「池袋東-合同防災訓練」 AM 9:00~
8	池袋消防署「附属小学校防災訓練」 PM 1:00~4:00	23	
9	池袋消防署「西口公園防災訓練」 AM 9:30~15:30	24	
10		25	水 上池袋町会「役員会」 PM 7:30~
11	池袋町会「合同部長会」 PM 7:30~	26	
12		27	
13		28	
14		29	日 町内会「ゴミ0デー」 全員 AM 8:00~
15	商店街「研修旅行」 ~ 16日(月)	30	
		31	

注意

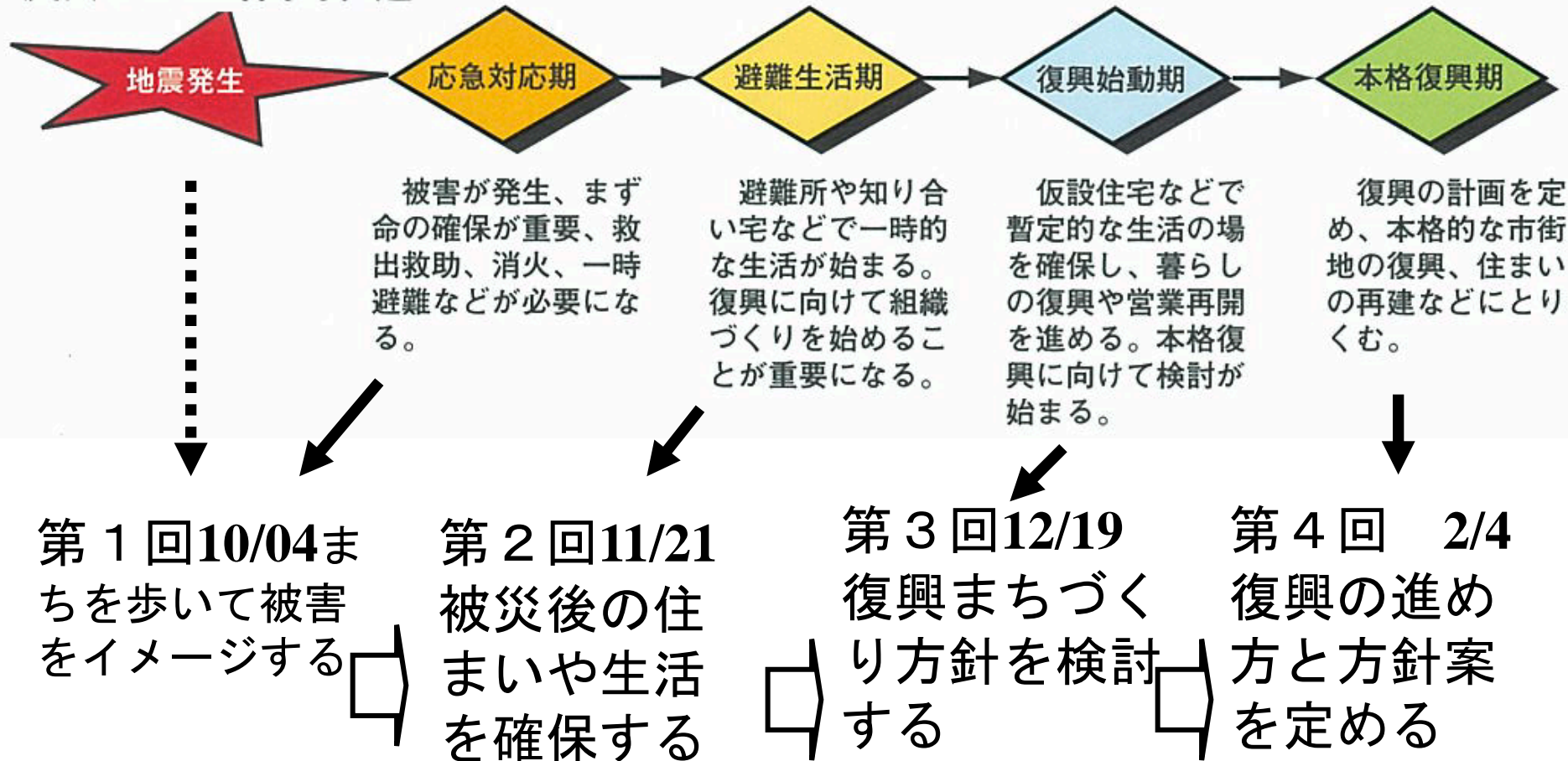
豊島区

H21年度 豊島区上池袋地区



豊島区上池袋地区 復興まちづくり訓練 全体プログラム

震災からの時間的経過



平成21年10月～平成22年3月

地元町内会、まちづくり勉強会主催、震災復興まちづくり支援機構協力

事務局：豊島区役所、首都大学東京事前復興計画研究会

上池袋復興訓練 第1回 まちを歩いて被害をイメージする



- ①道路がふさがり車も人も通れない。
- ②あちこちから出火し焼失する。
- ③行止まりが多く救出や避難が困難
- ④高齢者が多く、被災後の生活をすすめる場所が少ない。

◆地震の時、特に問題となるもの

上池袋地区での震災時のイメージを共有するため、七班に分かれ地区を点検し、予想される被害や復興課題を地図と模造紙にまとめ、班ごとに発表しました。

◆まちを歩いて被害をイメージ

第一回訓練は、日曜の午後にも関わらず、地域の方、一般市民、法律や土地家屋の専門家、区職員、消防団など九十人以上が参加しました。

第一回訓練（十日四日）

- ①仮住まいや仮の生活の確保。
- ②道路の確保。
- ③住まいの円滑な再建。
- ④高齢者などの被災生活の支援。

◆防災や復興に役立つもの

①さくら公園・場之内公園、その他の児童遊園
 ②子安稲荷、病院、集会室など憩いとなる場所
 ③社宅の庭や民間駐車場など、その他、燃えにくい新しい建物が増えていくことも指摘されました。

◆防災や復興に役立つもの

その他、老朽ブロック塀、業を保管する倉庫、傾いた電柱等危険箇所が指摘されました。

上池袋三丁目北

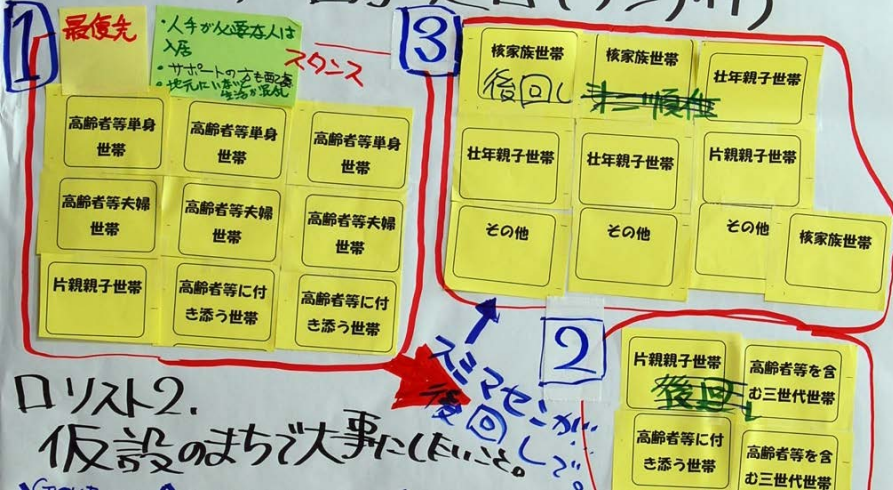
日 上池袋2丁目北エリア
 上池袋2・3丁目地区 震災復興まちづくり訓練

道路床塵
 1 火災
 2 古、建物
 3 ブロック倒壊
 4 電柱電線
 5 防災の資源
 さくら公園
 ぞうさん公園
 子安稲荷
 民間駐車場
 仮設復興地
 防災要所
 災害危険
 仮設復興地

上池袋復興訓練 第2回 被災後の住まいや生活を確保する



どんな人が住んで、どんな目標の環境をつくらたいかのリスト。入居予定者(ランク付)



1班: 仮設のまちの方針班

■設定: 全棟全壊 1,995世帯
 仮設世帯需要: 538戸

1戸あたり 30㎡(床)
 80㎡(土地)

■仮設用地 (平均) 324戸 24.

公園 1

- 公園の撤去!!
- 仮設住宅の建設費を削減するために撤去する(2017年)
- 公園の撤去(2017年)
- 仮設と併せて建設(2017年)
- テント敷設(仮設住宅の撤去)の検討中。
- 公園の撤去(2017年)
- 公園の撤去(2017年)

馬車場

- カキ+ミ
- カキの撤去(2017年)
- 下水処理場
- 震災ゴミ

境内・幼稚園

- 区立の地区協議会が行った?

焼失被害地

テント⇒仮設世帯(被災者が自らの土地)
 1戸あたり 30㎡(床)

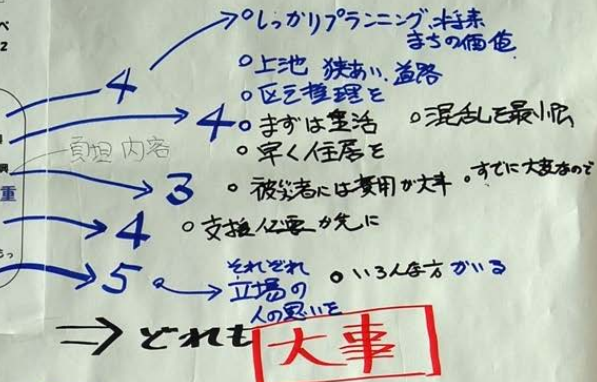
上池袋復興訓練 第3回 復興まちづくり方針の検討

佐藤, 中村, 梅津, 石井, 高野, 久保木, 鮎川, 横谷, 井上, 趙吉川



問1

- 4班
- 問1 上池袋の復興で特に重視すべきだと思うことは何ですか。次の中から2つ選んでカードを出してください
1. 将来に向けてしっかりした復興
 2. 期間を短くしてすみやかに復興
 3. 被災者の負担を少なくする復興
 4. 支援が必要な人の生活再建を重点に復興
 5. みんなの理解を得て思いがこもった復興



問2

- 1 災害を繰り返さない安全な街 CA
- 2 環境に配慮した緑が多い街 A
- 3 道路が整備されゆとりを感じられる街 C, E, F
- 4 緑地を生かした憩いみがある街
- 5 低層の戸建て住宅が多い落ち着いた住宅街
- 6 中層の都市型住宅が多く利便性が高い街 F, B
- 7 しっかりした住まいが確保された街 C, E
- 8 上池袋らしさを大事にした街 D
- 9 子育てしやすい環境の街 F, D
- 10 子育てや働きやすい街 E
- 11 若い人にも住みやすい便利な街 F, D
- 12 人のつながりと交流を大事にした街 E, B
- 13 快適で気持ちよい美しい街
- 14 庶民的で生活しやすい街
- 15 賑わいと活気がある街 A
- 16 次の世代も住み続けられる街 B

A ~~借地高齢者~~ B アパート全世帯 C 借地高齢者 E 一人暮らし

① 安全 80才

③ 道路 ③ 年寄り歩き道

⑦ 住みやすさ ⑦ 住まい ⑩ お祭り

○ 所沢の老夫婦へ ⑫ 人のつながり

借地の場合権利 → 75才

① 安全な街

② 環境に配慮

③ 道路

④ 緑地

⑤ 低層戸建て

⑥ 中層戸建て

⑦ 住みやすさ

⑧ 上池袋らしさ

⑨ 子育て

⑩ 若い人

⑪ 若い人

⑫ 人のつながり

⑬ 快適

⑭ 庶民的

⑮ 賑わい

⑯ 次の世代

(問1)

① <しっかり>	② <すみやかに>	③ <負担少なく>	④ <生活再建を重点>	⑤ <みんなの理解>
5	3	3	5	2
~役割踏まえると...~				
2	5	6	1	0

① しっかり (しっかりした住まいが確保された街)

② すみやかに (期間を短くしてすみやかに復興)

③ 負担少なく (被災者の負担を少なくする復興)

④ 生活再建を重点 (支援が必要な人の生活再建を重点に復興)

⑤ みんなの理解 (みんなの理解を得て思いがこもった復興)

(問2)

① 災害を繰り返さない安全な街 4

② 環境に配慮した緑が多い街 1

③ 道路が整備されゆとりを感じられる街 1

④ 緑地を生かした憩いみがある街 0

⑤ 低層の戸建て住宅が多い落ち着いた住宅街 0

⑥ 中層の都市型住宅が多く利便性が高い街 1

⑦ しっかりした住まいが確保された街 1

⑧ 上池袋らしさを大事にした街 1

⑨ 子育てしやすい環境の街 1

⑩ 子育てや働きやすい街 1

⑪ 若い人にも住みやすい便利な街 1

⑫ 人のつながりと交流を大事にした街 1

⑬ 快適で気持ちよい美しい街 1

⑭ 庶民的で生活しやすい街 1

⑮ 賑わいと活気がある街 1

⑯ 次の世代も住み続けられる街 1

① 安全な街

② 環境に配慮

③ 道路

④ 緑地

⑤ 低層戸建て

⑥ 中層戸建て

⑦ 住みやすさ

⑧ 上池袋らしさ

⑨ 子育て

⑩ 若い人

⑪ 若い人

⑫ 人のつながり

⑬ 快適

⑭ 庶民的

⑮ 賑わい

⑯ 次の世代

① 安全な街

② 環境に配慮

③ 道路

④ 緑地

⑤ 低層戸建て

⑥ 中層戸建て

⑦ 住みやすさ

⑧ 上池袋らしさ

⑨ 子育て

⑩ 若い人

⑪ 若い人

⑫ 人のつながり

⑬ 快適

⑭ 庶民的

⑮ 賑わい

⑯ 次の世代

酒屋

⑥ 都市型住宅

③ 若い人

⑨ 子育て

⑩ 若い人

⑪ 若い人

⑫ 人のつながり

⑬ 快適

⑭ 庶民的

⑮ 賑わい

⑯ 次の世代

① 安全な街

② 環境に配慮

③ 道路

④ 緑地

⑤ 低層戸建て

⑥ 中層戸建て

⑦ 住みやすさ

⑧ 上池袋らしさ

⑨ 子育て

⑩ 若い人

⑪ 若い人

⑫ 人のつながり

⑬ 快適

⑭ 庶民的

⑮ 賑わい

⑯ 次の世代

B アパート全世帯

⑥ 中層戸建て

⑫ 人のつながり

⑬ 快適

⑭ 庶民的

⑮ 賑わい

⑯ 次の世代

① 安全な街

② 環境に配慮

③ 道路

④ 緑地

⑤ 低層戸建て

⑥ 中層戸建て

⑦ 住みやすさ

⑧ 上池袋らしさ

⑨ 子育て

⑩ 若い人

⑪ 若い人

⑫ 人のつながり

⑬ 快適

⑭ 庶民的

⑮ 賑わい

⑯ 次の世代

上池袋復興訓練 第4回 復興の進め方と方針案を定める

ワールドカフェ方式で

4班

3区が発表した復興まちづくり方針を、訓練1で想定した復興の目標を満しているか? 復興まちづくり番号のカードを1枚出していただく。

まったくでない、大きい穴がある
②
どちらかというかなまりがある
⑧
わからない、ほとんど思えない
⑧
どちらかというややよい
⑧
かなりよい

負向

- 復興共同住宅の復興と隣
- 先んずく借家・P1Aの方から住む
- 戸数増は5階建
- 民間で共同化
- 南取りも多様
- 地主が建設

行政が補助、奨励の補助、行政補助

○戸数の把握をしてほしい

○先行取得と行政団が早く行くこと、減歩はなるべく少ない

○先行取得と行政団が早く行くこと、減歩はなるべく少ない

○早く決めて早受



上池袋 2、3丁目復興街づくり方針図(案)

○ライフライン時期

- ・お風呂はどうか
- ⇒ 深井戸の水をつかって
- 井戸のおお風呂屋さんと協定を結ぶにかなり、なると早く再開。

○火災保険は?

- ・地震特約に入っていないと保険は出ない。

○他の地区ができてどうなるか

- ⇒ 区の中で優先順位をつける。
- 他の地区での

○住宅の再建公営を復興住宅と見具体的に

○先んずく取得は進めて減歩を減らす

○進め方ははっきり

○実現性を!! 持つ

○よくない理由

- ・1ヶ月は越え本時期 →
- ・もう1ヶ月後なら、机上の空論にならなない。
- ・実現性を感じない。
- ・周りの地域との関連が見えない。
- ・密集地区は区内で6ヶ所しかない。
- ・全国から技術者が入ってくるので、地元を知らない人ばかりで、他の地域から出てきている人もいます。
- ・公共施設が少なすぎる。

A おすすめな商店 (復興体制と復興手順)

復興を進める上での不安・必要なサポート

協賛会を事前に作るには?

誰がやるか? ↓ どんなん事ができるか?

行政

PTA

NPO

専門家

14

上池袋2・3丁目復興計画案

火災による焼失区域 (Red square) 揺れによる被害集中箇所 (Yellow circle)

集会所+公園 (2830㎡)
現：上池袋区民集会所
3丁目児童遊園 (1,508㎡)

寺+公園 (3803㎡)
現：堀之内公園 (1084㎡)
現：児童遊園 (488㎡)
現：寺 (2,036㎡)

復興共同住宅

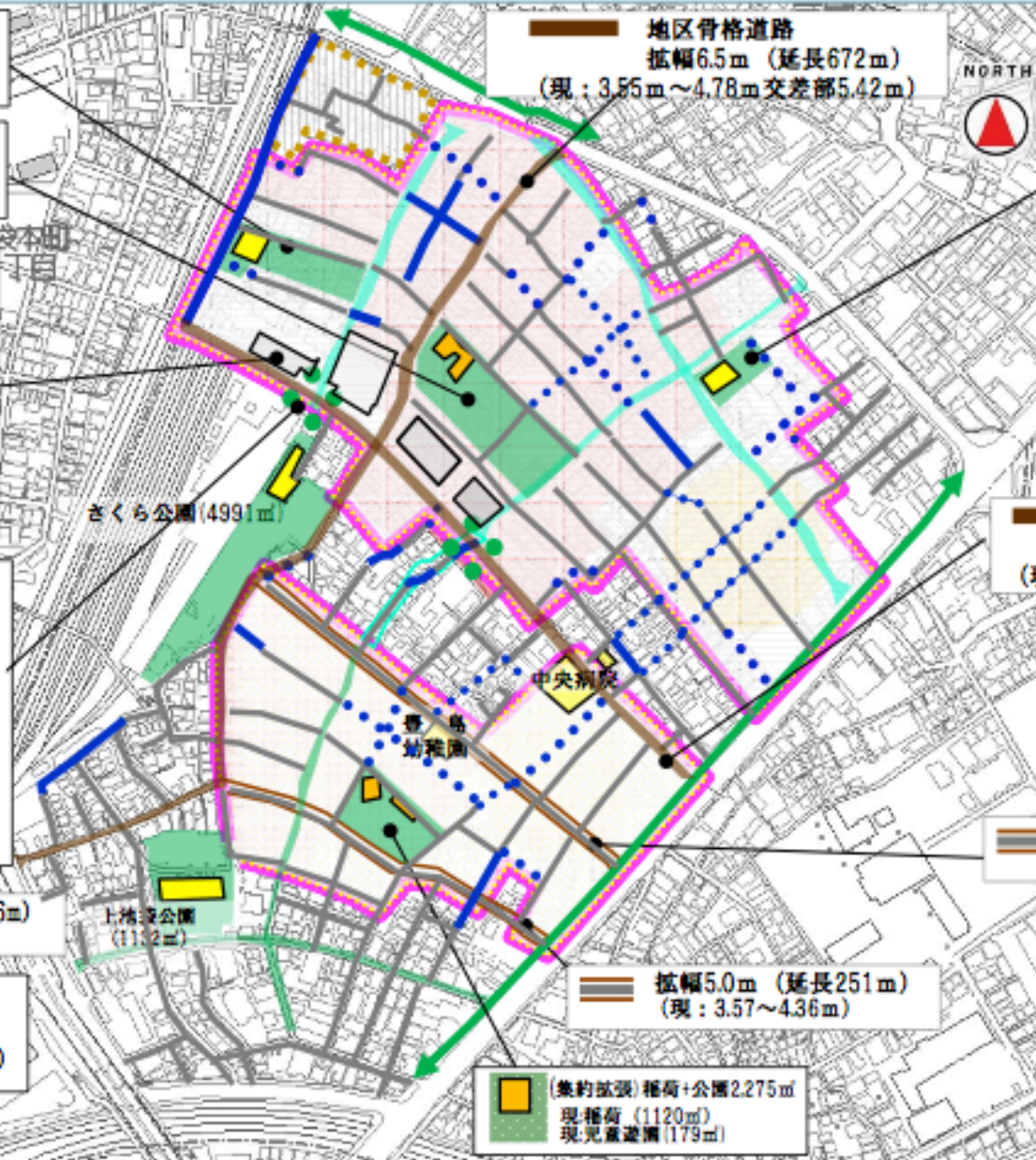
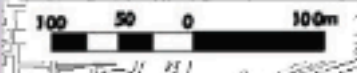
つつじ苑 + ソシエ

新しい辻広場のイメージ

市内ギャラリー
児童の作品展示 (池三小)

拡幅4.5m (延長1966m)
(現：2.73m~4m)

幅員4.0m道路
●●● 付替
■ 新設 (総延長657m)



地区骨格道路
拡幅6.5m (延長672m)
(現：3.85m~4.78m交差部5.42m)



保育園+遊園 (1,000㎡)
現：児童遊園 (525㎡)
現：保育園 (830㎡)



地区骨格道路
拡幅6.5m (延長469m)
(現：3.44~5.37m交差部5.93m)



拡幅5.0m (延長320m)
(現：3.57~4.46m)

拡幅5.0m (延長251m)
(現：3.57~4.36m)

(集約拡張) 種荷+公園2,275㎡
現：種荷 (1120㎡)
現：児童遊園 (179㎡)

土地区画整理事業 (Pink dashed box)
敷地整除型
土地区画整理事業 (Yellow dashed box)

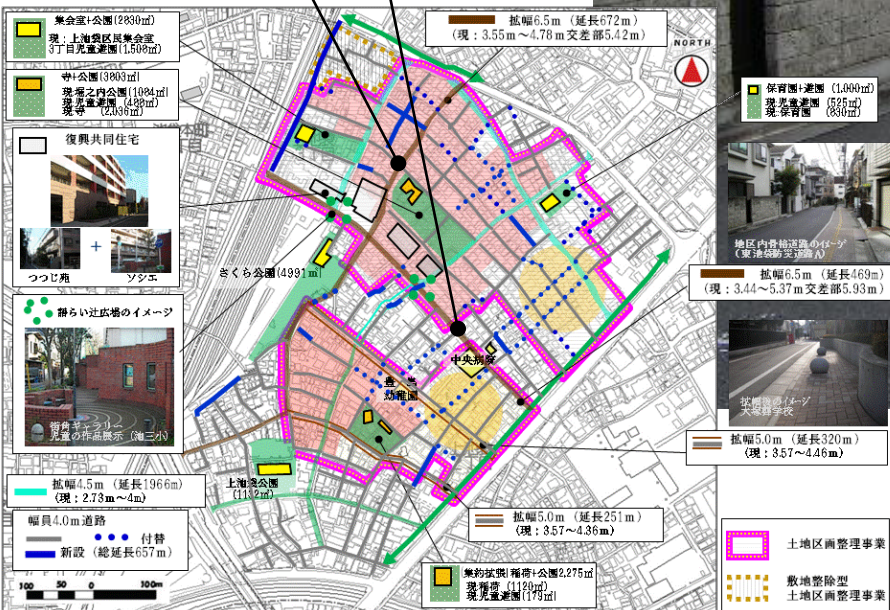
地区骨格道路(6.5m)のイメージ



幅6.5m(延長672m)
(現:3.55m~4.78m交差部5.42m)

幅6.5m(延長469m)
(現:3.44~5.37m交差部5.93m)

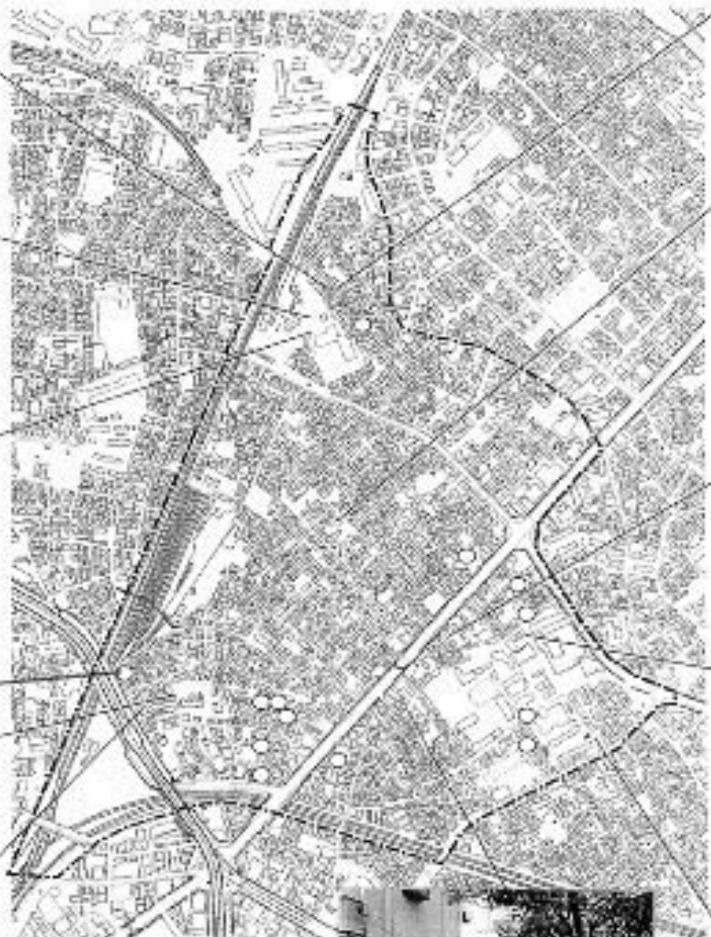
上池袋2・3丁目復興計画案



東池袋防災道路A

防災まちづくりから事前復興まちづくりへ：豊島区

上池袋地区 居住環境総合改善事業の実績



○：建替促進助成
 共同化住宅

上池袋2丁目
 共同化住宅

上池袋1丁目児童
 遊園広場

東海ふれあい広場



主要生活道路
 日4前開路



上池袋公園広場



上池袋公園広場



第一池袋ふれあいセンター



第二池袋ふれあいセンター



第二池袋公園



第二池袋公園



上池袋1丁目ゆったり
 広場児童遊園



第三池袋ふれあい広場
 (実験棟)



Outcome2:「震災復興マニュアル」策定手法の開発

豊島区の震災復興に備えて



万一、大地震で甚大な被害が生じたら、
どのようにまちを再生するか……
豊島区では復興に向けての準備を始めました。

大地震の後でも、区民と区で協働して豊島のみらいを創ろう



平成23年3月 豊島区



目次

1 page

豊島区の復興対策の考え方

2 page

都市・住宅復興の手順

3 page

豊島区「事前復興ビジョン」について

4 page

震災復興まちづくり訓練のススメ

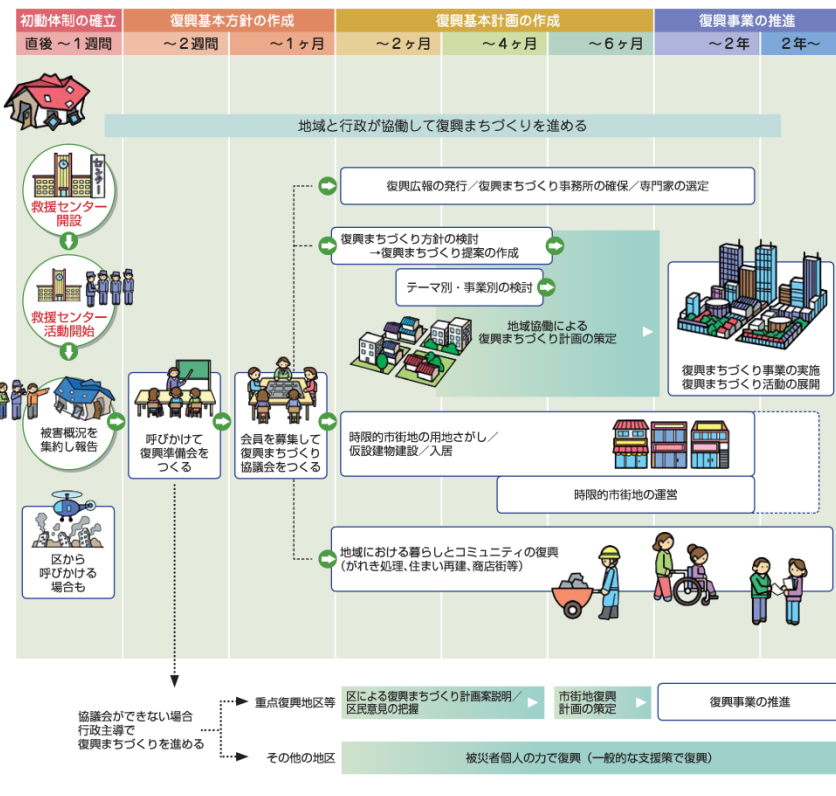
地域協働によるまちの復興

丸枠は災害対策本部業務

重点復興地区に指定された地区などでは「地域と行政が協働してまちの復興を進める」ことが必要です。「救援センター」で、その地区で地域活動やまちづくりをしていた人たちが中心になって「復興準備会」をつくり、会員を募集し、「地域復興組織（復興まちづくり協議会）」を結成していただきます。協議

会は行政と協力して、「復興まちづくり提案」、「時限的市街地の運営」などを行います。

円滑にまちの復興を進めるには、災害の前から地域に組織をつくって活動しておくこと、復興まちづくり訓練を行い、だれがどういう手順で復興に取り組んだらよいかを事前に検討しておくことが重要です。



5 復興ミニ知識

応急的な住宅と「時限的市街地」

住い家を失って自らの資力で確保できない人には、都が災害救助法に基づき応急仮設住宅や借り上げ住宅を提供します。一方、多くの人が地域にとどまって復興するには、暫定的な生活の場である「時限的市街地」が必要です。地域復興組織（復興まちづくり協議会）は区や都と協力して仮設建物や店舗なども確保していきます。

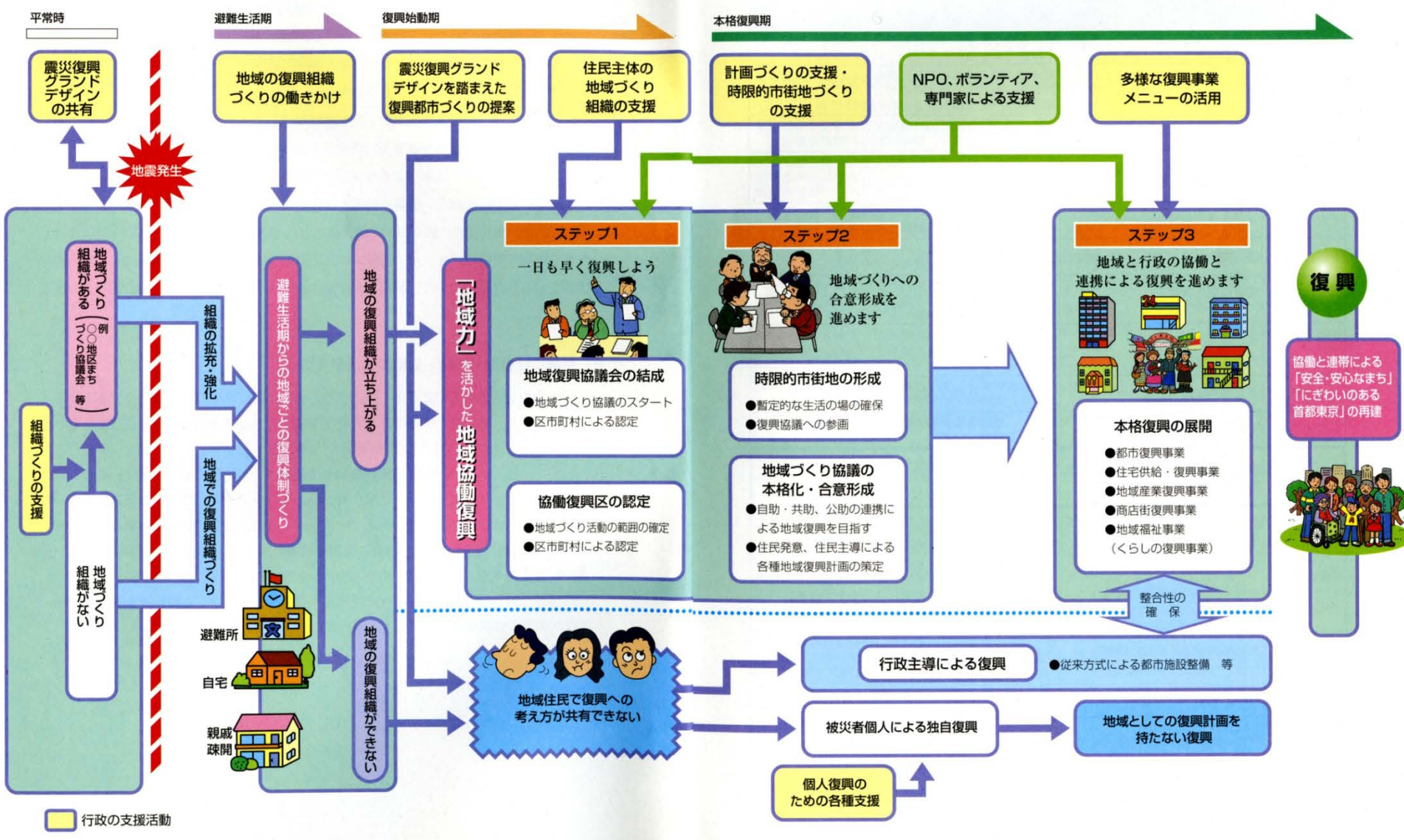
6 復興ミニ知識

土地区画整理事業

狭い道路や建て替え困難な敷地が多い地区、駅前広場や道路整備が必要な地区などでは、一体的に整備していく復興が必要になります。

その方法の一つが「土地区画整理事業」です。従前の権利者が少い土地を出し合い（「減歩」）、宅地を整理し公共施設を整備していきます。地権者にとっては、宅地の面積は減るものの利用価値の高い宅地が得られます。過去の震災復興事業では大きな役割を果たしてきました。

東京都「地域協働型」の復興手順(2003年)



それぞれの自治体の地域社会特性を踏まえていない！

Outcome2:練馬区の地域協働型復興の流れ(震災復興マニュアル)

地域協働復興 ～地域の皆さんと練馬区が協働して進める復興まちづくりを紹介します～

もし、私たちのまちが、地震で大被害をうけたとき、どうしたらいいのでしょうか。
練馬区では、地域の方々と行政が連携・協力してまちを復興していく「地域協働復興」という考え方に基いて「震災復興マニュアル」を定めました。(なお、地域で復興に取り組む組織ができない場合は、区が中心になって復興にあたることになります、以下の時間はおおよその目安です。)

復興まちづくりへの支援

区は、復興まちづくり事務所の設置、専門家の派遣、復興ニュースの発行等、協議会の活動を支援します。

地震後3日間はいのちを守る

地震の直後から避難拠点を開設し、情報の収集や避難生活の確保を進めます。

地震発生

1～2時間 個人対応期

3日目まで 緊急初動期

7日目まで 応急対応期

8日目以降 避難生活期

地域復興組織を立ち上げる(おおむね2週間～1ヶ月)

被災者や地域の方々を中心に「復興まちづくり協議会」を結成し、区と話し合いを始めます。



まちの復興計画をつくる(おおむね6ヶ月)

被災者や地域の意見を復興まちづくり協議会が集約し、区と話し合いながら地区の復興計画をまとめます。



被害概況を調べて復興を準備(震災後おおむね1.2週間)

おおよその被害を把握し、復興が必要な場合、その準備を始めます。



時限的市街地を確保する(おおむね1ヶ月以降)

地区内で用地をさがし、仮設住宅や臨時の店舗を設置し、入居者のケア等を地域と区が協働で行います。



復興まちづくりを実現する(おおむね6ヶ月以降)

まちの復興計画をもとに、市街地の整備や建築の建設誘導を進めるとともに、元気がでる地域づくりを進めます。



Outcome2:葛飾区堀切地区, 復興まちづくり模擬訓練を踏まえたまちの復興手順書

首都大G(吉川仁さんチーフ), マヌ都市建築

堀切地区 震災復興の進め方の手引き

骨子(案)

この骨子案は、今後、地域で堀切地区の震災復興の進め方を検討する際に、たたき台としてご活用いただくために作成されました。



事業単位別の検討会

復興事業において、土地区画整理事業や道路等の整備が地区の一部で計画される場合、関係権利者や区の呼びかけによって該当区域に係る検討会等を設置し、計画づくりを進めます。協議会からも担当委員が参加し、地区全体の復興と調整を行います。

参考

堀切地区に関連する住民防災組織

① 町会自治会

- 堀切東町会防災市民組織
- 堀切西町会防災市民組織
- 堀切南町会防災市民組織
- 堀切北町会防災市民組織
- 堀切中央町会防災市民組織
- 堀切四丁目中町会防災市民組織
- 堀切四丁目北町会防災市民組織
- 堀切京南自治会防災市民組織

② 避難所運営組織及び避難所(自主)運営本部

- 堀切小学校避難所運営会議／堀切 2-42-1(堀切中央町会・堀切西町会・堀切北町会)
- 堀切中学校避難所運営会議／堀切 1-36-1(堀切東町会、堀切南町会)
- ウエルピアかつしか避難所運営会議／堀切 3-34-1(堀切東町会、堀切京南自治会、堀切北町会)
- 綾南小学校避難所運営会議／堀切 1-22-1(堀切南町会)
- 旧小谷野小学校避難所運営会議／堀切 4-60-1(堀切四丁目北町会、堀切四丁目中町会)

③ 第2順位の避難所

- 堀切敬老館(堀切 1-23-6)、他

堀切地区地域団体連絡先一覧(メモ欄)

地域団体	連絡先

【ステップ3】

4. 堀切地区の震災復興の手順(案)

堀切地区の震災復興は、原則として以下の手順で進めます。日頃から地域で活動する組織等が中心になって準備連絡会を設置し、広くよびかけて協議会を設立します。

堀切地区の復興の流れ

【ステップ1】

まちの被害を調べて、
堀切地区センターで
まとめます

- 町会自治会の防災組織を中心に、震災後数日以内に、町内の被害概況を調べて、地区災害拠点(堀切地区センター)に報告します。

【報告内容】

- ・ 焼失した区域
- ・ 全半壊建物の多い街区(概ね半分以上)



- 復興が必要な場合、堀切地区連合町会長や地域防災部長は、町会の要請や被災者等の申し出などをふまえ、堀切の関連組織【表1】等呼びかけ、「堀切地区復興準備連絡会」を開催します。
- 準備連絡会には、各組織から1~数名が出席し、協議会設立を協議します。また、区職員の参加を求めることができます。

【表1】準備連絡会の呼びかけを行う組織

- ・ 町会自治会
- ・ 同防災組織メンバー
- ・ 商店会
- ・ 民生委員
- ・ 上記の他、堀切地区で活動する団体個人で町会長が推薦するもの

- 準備連絡会は、協議会の規約案を用意し、回覧、ニュース配布、避難所での案内等によって協議会委員を募集します。
- 区外の被災者・権利者については区を通じて連絡します。
- 参加委員により、設立準備会を開催し、規約・役員、復興区域等を定め、協議会を発足します。
- 区に地域復興組織認定申請を行います。

【ステップ2】

復興準備連絡会を
立ち上げ、委員を募集し、
震災復興協議会を発足します

震災復興協議会の活動体制を整えます。



- 【事務局】当面、堀切地区センターに設置します。
- 【構成】役員の他、総務部、広報部、都市住宅部、時限市街地生活復興支援部、商業地域活性化部、などを設置します。

【葛飾区への協力を要請する事項】

- 「復興に関する相談窓口」の開設
- 復興を支援する「専門家の派遣」(区と一緒に人選)
- 必要に応じて、復興に関する説明会や部会の設置(町会別・街区別・事業別・課題別など)

●堀切地区の「震災復興計画づくり」を進めます

- 協議会は、区に「復興まちづくり方針案」の策定及び区民や被災者への説明会開催を求められます。
- 協議会は、区の方針案を受けるなどして、「堀切地区に関する復興まちづくりに関する提案」を行います。
- 協議会は、復興に関わる地域活動等を計画することができます。その場合、区に活動の支援を要請することができます。



●「時限的市街地」の建設を検討し、運営を支援します

- 協議会は、必要な仮設住宅や共同施設等による「時限的市街地」を堀切地区に建設することを区に提案できます。
- 時限的市街地の建設候補地は【表2】のとおりとします。不足する場合、土地所有者の協力を求めるなど確保に動きます。
- 協議会は、時限的市街地への入居について、担当部を設け、区と協力して支援活動を行います。

【表2】堀切地区の時限的市街地の候補地(案)

《第1順位》

- ・ 旧小谷野小学校
- ・ ウエルビア
- ・ 二丁目防災広場
- ・ 四丁目防災広場

《第2順位》

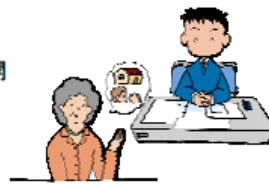
- ・ 事前協定してある民間空地(駐車場等)
- ・ 上記以外の公園

《第3順位》

- ・ 首都高速道路高架下
- ・ 駅前広場等の事業用地
- ・ 上記の他、協議会が推薦する土地

●復興に関する広報・相談、被災者支援、地域づくり活動を進めます

- 広報部会が、広報紙の配布等、広報活動を行います。
- 被災者等の要望をとりまとめ、区などに働きかけます。
- 区を通じて専門家等の派遣を要請し、相談や案内会を開催します。
- その他、地域を元気づけるイベントやネットワークづくりを行います。



Outcome3:地域住民・専門家向け復興まちづくり訓練のプロモーション

「復興まちづくり訓練の手引き」の作成

- ◆時限的市街地の検討用
 - ・大判白地図・仮設住宅模型*
- ◆復興まちづくり検討用
 - ・都市計画マスタープラン計画書等

4 訓練内容の企画

(1)「実施方針案」の段階で全体のフレームを設定する

実施方針案の段階で、訓練の全体フレームを設定しておく。対象地区の事情に応じて、実施できる回数や検討テーマ、確保出来る訓練時間などが異なるので、それに即して訓練の流れを定める。半日や1日で行う訓練、他のイベントの一部として行う場合などさまざまである。

これまでの経験では、ガイダンスを入れて全5回（各回3時間）が確保できればかなり実践的で内容が完結した訓練となる。全2回の簡便型訓練だと問題意識の醸成と課題把握にとどまり、簡便な例と実践的な例を紹介する。

◆実践型訓練のフレーム例（4～5回、各回3～3.5時間程度）

震災の時間的経過に即して各回のテーマを設定する。震災や復興の全体的な流れの理解とともに、具体的な復興の手順や地域課題を考えることも習得できる。月1回で行う場合の代表的な流れを示す。各回では、その回のテーマを設定し、解決すべき問題と回答を見いだす。地区によっては、避難所運営訓練や災害图上訓練など応急対応段階の訓練プログラムを組み込むこともできる。

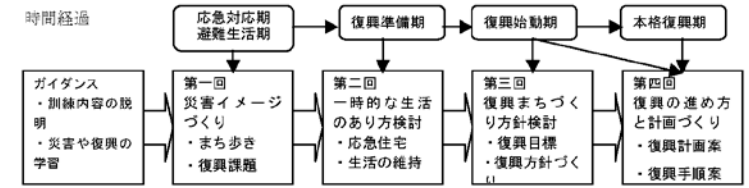


図 実践型訓練のフレーム例

◆簡便型訓練のフレーム例（2回、土日の午後などに一回3時間程度）

震災や復興のあらましを学習し、協働してとりくむことの重要性を理解する。当該都市の地域リーダーや行政職員を集めて研修会として実施するにも適している。

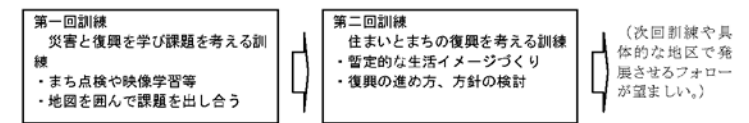


図 実践型訓練のフレーム例

5 「復興訓練ワーク」の実践例

ここでは、これまで震災復興まちづくり訓練で実施した「復興訓練ワーク」を紹介する。その地区の課題や各回の訓練テーマ、参加者の状況に即して設定することが重要である。
なお、グルーワークは、ファシリテーター（進行役）が進行する。

(1) 震災・復興を学習する訓練ワーク

まず、参加者に訓練のあらましを案内する。その時に震災や復興に関する基礎知識を理解してもらい、復興に関する問題意識や課題を醸成する。以下のワークなどを参考にガイダンスや第1回訓練のプログラムを構築する。

① 災害や復興事例の学習会

あらまし	・映像や記録、講話等から過去の災害と復興の事例から教訓を学ぶ
形式/所要時間	・学習会、講演会形式 ・40分～60分
主な準備	・講演者の確保(災害や復興の研究者等) ・映像の確保/・配付資料の作成 ・プロジェクター等一式
留意事項	特に1923年関東大震災の震災や帝都復興、1995年現代都市をおそった阪神・淡路大震災の被害と復興などはよい教材になる。



関東大震災/阪神・淡路大震災

② 体験者の話を聞く

あらまし	・被災や復興で生じる出来事や課題を体験者から直接参加者に伝える
形式/所要時間	・学習会/講演会、(書き出しワークも効果的) ・60～90分
主な準備	・講演者の依頼、確保(被災や復興の当事者) ・被災地の記録等の計画 ・プロジェクター等一式
留意事項	・地域特性や想定される災害状況が類似している事例から選ぶ ・防災講演会としても有効性が高い。 ・終了後、懇親会等で内容深化を図るのもよい



神戸市御蔵地区の田中さんの講演（上池袋）

③ 行政のマニュアルや方針を知る

あらまし	・当該の自治体で復興にどのように備えているか、を共有し、訓練の基礎知識にする
形式/所要時間	・学習会 ・20～30分
主な準備	・復興マニュアル、ビジョン等紹介資料（パンフ等） ・復興まちづくり啓発DVD ・プロジェクター等一式
留意事項	・参加者の興味は応急対策にあることも多い。応急対応一復興を一連で考えることも重要なので、合わせて防災対策への理解を求めてもよい ・律儀制限、地区区分、生活復興手順など



Outcome3:地域住民・専門家向け復興まちづくり訓練のプロモーション 事前復興まちづくりの来年度以降の継続

[1] 豊島区

- ・平成24年度 池袋本町での復興まちづくり訓練
- ・平成24年度 生活復興マニュアルの策定

[2] 八王子市

- ・平成24,25年度 職員ワークショップ方式プログラムでのマニュアル策定

[3] 葛飾区

- ・全19連合町会地区での復興まちづくり訓練の実施スキームの反映:新基本計画へ
- ・平成25年度以降、復興まちづくり訓練実施予定

※復興まちづくり訓練や震災復興マニュアルの見直しは、上記以外にも、新宿区や足立区で活発な動きがある。(首都大以外のプランナーや大学研究室が支援)